



「は」さんのこと?!

6月×日

そろそろ「つれづれ日記」の原稿を書かなくちゃなあと思って、この間送った6月号の原稿を読みなおしてみた。で、えらいことに気づいた。「『は』さん」とか書かれても、わかるのはわたしのブログを読んでいる人だけ。というか、どういう人がわかるのは、最悪、世界で「は」さんとわたしの2人だけやん。なんとかしなくちゃ…。

* * *

わたしが自分がトランスジェンダーという存在であったことを知ったのは、1997年のことでした。それから2年ほどかけて、少しづつ少しづつ「いつき」として生きる場所をつくりはじめました。とは言え、それは自分の人生や実生活とは無縁の場所でしかありませんでした。

そんなわたしの転機となったのは、1999年のことでした。その夏、大阪女学院を会場として「第10回全国キリスト教学校人権教育セミナー(以下、セミナーと略)」が開催されました。

このセミナーは、全国キリスト教学校人権教育研究協議会(以下、全キリと略)が主催しています。もともとは部落や在日朝鮮人の生徒にかかる実践交流を行っていましたが、現在は、障碍・女性・平和など、さまざま分科会を持たれています。わたしは第1回セミナーから参加しており、京都で開催された第4回セミナーでは、当時担任していた在日朝鮮人生徒のことを報告しました。

第10回セミナーでは、レズビアンの方をお招きして、性差別の分科会ではじめて性的少數者をテーマとしてとりあげることになりました。わたしはこの時、分科会と分科会後に行われる懇親会に「女性」として参加しようと決意しました。これが、土肥としての人生・生活と「いつき」がはじめて出会った時でした。

西南女学院を会場として開催された第11回セミナーでは、3日間のセミナー期間中を女性として参加することにしました。

京都の舞鶴にある日星学園を会場とした第12回セミナーでは、わたしは実行委員として性的少數者の分科会のコーディネーターをするとともに、懇親会の司会を担当しました。その司会のペアが「は」さんこと阿部はる奈さんでした。

阿部さんとはそれまで面識はありませんでした。懇親会は夕方です。当時脱毛をしていなかつたわたしにとって、夕方に人前に立つのはかなりプレッシャーでした。トイレの洗面台で鏡を見ながら不安げな表情をしているわたしの姿を見て、阿部さんは「一緒にいたらちょっとは心強いのではないか」と思われたそうで、ずっとわたしをエスコートしてくださいました。そんな阿部さんの姿に「ここなら『いつき』として生きることができるんだ」という思いを持ったことを、今でも覚えています。それから8年、阿部さんの存在は、いつもわたしを支えてくださっています。

全キリはとても不思議なところです。わたしがトランスであることを知った昔からの仲間が最初に言った言葉は「やっぱり」でした。いつもまわりに「男」を強く意識させてきたわたしに、ずっと前から違和感を持っておられたようです。わたしは意識していたつもりはなかったのですが…。

阿部さんをはじめとする全キリの仲間たちとの出会いをきっかけに、少しづつ「いつき」としての人生と「土肥」としての人生が統合されはじめました。そして、今のわたしがあります。

今年の夏のセミナーは、8月6日～8日に東京で開催されます。7日にはいくつかのコースにわかれてフィールドワークが行われます。わたしはそのひとつのコーディネーターを依頼され、即座に講師を三橋順子さんにお願いすることにしました。題して「江戸時代から現代まで、ヘテロセクシュアル、ホモセクシュアル、トランスジェンダーが織りなす新宿、性社会史ツアー」。興味をお持ちの方は、<http://zenkirijuny.net/>をご覧下さい。

(土肥いつき 高校教員)